

## 川崎医科大学における大学連携活動について：その10 －2017年度半ばから2018年度半ばにかけての活動－

大槻剛巳<sup>1,2,3)</sup>, 李 順姫<sup>2)</sup>, 長谷川真紀<sup>4)</sup>, 柏原直樹<sup>5,6,7)</sup>, 福永仁夫<sup>8,9)</sup>

- 1) 川崎医科大学産学官連携活動担当副学長補佐
- 2) 川崎医科大学衛生学
- 3) 大学コンソーシアム岡山 (川崎医科大学運営委員, 各種常設委員会委員,  
将来構想委員会委員, 社会人教育委員会委員長)
- 4) 川崎医科大学語学
- 5) 川崎医科大学腎臓・高血圧内科学
- 6) 川崎医科大学国際交流委員会委員長
- 7) 川崎医科大学副学長
- 8) 川崎医科大学学長
- 9) 大学コンソーシアム岡山 (川崎医科大学代表者)

(平成30年10月19日受理)

External activities such as university cooperation and others in Kawasaki Medical School: Part 10  
－ Activities from the middle of the 2017 fiscal year to the middle of 2018 －

Takemi OTSUKI<sup>1,2,3)</sup>, Suni LEE<sup>2)</sup>, Maki HASEGAWA<sup>4)</sup>,  
Naoki KASHIHARA<sup>5,6,7)</sup>, Masao FUKUNAGA<sup>8,9)</sup>

- 1) *Vice President Assistance Specialized in Industry-Academia-Government Cooperation,  
Kawasaki Medical School*
- 2) *Department of Hygiene, Kawasaki Medical School*
- 3) *Acting Committee Member of Kawasaki Medical School, Member in All Permanent Committees,  
elected Member of Committee for the Concept for the Future,  
Chairperson of the Continuing Education Committee,  
in the Consortium of Universities in Okayama*
- 4) *Department of Linguistics, Kawasaki Medical School*
- 5) *Department of Nephrology and Hypertension, Kawasaki Medical School*
- 6) *International Exchange Committee, Kawasaki Medical School*
- 7) *Deputy-Dean, Kawasaki Medical School*
- 8) *Dean, Kawasaki Medical School*
- 9) *Deputation from Kawasaki Medical School in the Consortium of Universities in Okayama  
(Accepted on October 19, 2018)*

## 抄 録

川崎医科大学は、大学連携・産学官連携について様々な取組に参画している。これらのうち筆頭著者が担当している事業の中で、大学コンソーシアム岡山と倉敷市大学連携推進会議を中心に、ここ1年の活動状況を報告する。なお産学連携活動は2016年度に発足した産学連携知的財産管理室が担当しており、その活動報告は別に紹介する。さらに、国際医学生連盟を介した海外医学生の受入についても、2018年度からは国際交流委員会が所掌することになった。その経緯などについても報告する。

キーワード：大学連携事業，大学コンソーシアム岡山，倉敷市大学連携推進会議，  
国際医学生連盟

## Abstract

Kawasaki Medical School is participating in various initiatives for university cooperation and industry-academia-government collaboration. Among these matters, the first author (TO) is responsible for the following: focusing on efforts to form industrial clusters in Okayama prefecture, the Consortium of Universities in Okayama and the Kurashiki Universities Collaboration Meeting. Since the Industry-Academia Collaboration and Intellectual Property Management Section was established in the 2016 fiscal year, the report regarding this area is omitted from this article. Additionally, we will report on the acceptance of overseas medical students through the International Federation of Medical Students' Associations (IFMSA). However, this matter has been also managed by International Exchange Committee in our medical school.

**Key words:** Universities Cooperation, the Consortium of Universities in Okayama,  
Kurashiki Universities Collaboration Meeting,  
International Federation of Medical Students' Association

## 1. はじめに

川崎医科大学では、種々の対外活動を行っており、筆頭著者が2009年度より学長補佐として、2012年度よりは副学長補佐として携わってきた活動については、年次報告およびそれらに対する考察をまとめて報告してきた<sup>1-9)</sup>。この間、中央研究部、研究支援係や国際交流委員会などの設置と業務の充実が達成され、特に産学官連携活動については、2016年度より産学連携知的財産管理室が発足した<sup>10,11)</sup>。著者はその室長も併任しているが、その活動については、昨年度、別稿<sup>10)</sup>で紹介したため本稿では割愛する。なお、学生レベルでの国際交流であるものの、研修について大学の教室が担当することになる国際医学生連盟 (International Federation of

Medical Students' Associations : IFMSA)<sup>12)</sup>を介した学生の受入についても、2018年度からは国際交流委員会が所掌することになったが、その経緯も含めて本稿で紹介する。

表1に本論文の対象となる産学官および大学連携活動を挙げる。学校法人川崎学園として特筆すべきは立地している倉敷市 (2015年5月15日)のみならず総社市 (2015年7月24日)・備前市 (2015年9月15日)と包括協定を結んでおり、2017年には岡山市 (5月30日)<sup>13,14)</sup>、赤磐市 (11月21日)<sup>15)</sup>とも連携協定を締結した。さらに高知県幡多郡黒潮町とは危機管理・防災教育に関する包括的な覚書の締結が行われた (12月20日)<sup>16)</sup>。岡山市との提携では、特に医療や保健、福祉分野の人材育成や災害時の人的支援などが

表1 2017～2018年度川崎医科大学の参画する大学／産学官連携活動とその他対外活動の一覧

---

1. 学校法人川崎学園としての地域連携
1) 倉敷市
2) 総社市
3) 備前市
4) 岡山市 (2017年5月30日に協定締結)
5) 赤磐市 (2017年11月21日に協定締結)
6) 高知県幡多郡黒潮町
(2017年12月20日に危機管理・防災教育に関する包括的な覚書締結)
2. 大学連携事業
1) 大学コンソーシアム岡山
2) 倉敷市大学連携推進会議
3. 産学官連携事業 (2016年度より大学組織として産学連携知的財産管理室が所掌)
4. その他対外活動 (除：国際交流委員会所掌事業)
1) 国際医学生連盟による海外留学生受入
(2018年度より、本連携も国際交流委員会でも所掌)

---

中心となり、2016年12月より岡山市で移転開業した川崎医科大学総合医療センターの存在も重要であろうと思われる。また、南海トラフ地震の危機などが現実的に想定されている中で、本学が有する救急医学教室をはじめとする医療体制との連携が黒潮町との間で有効に活用される点であろう。ただし、これらは学園全体の地域連携活動であり、本稿は詳細を述べるものではない。

また、倉敷市との包括協定の事業の一環として、学園内の知的資源を地域に還元し、倉敷市民の健康づくりや医療福祉の推進に寄与していくことを目的に「川崎学園市民公開講座」シリーズが始まり、2018年4月21日に第1回目が実施された<sup>17,18)</sup>。7月予定の第4回目は西日本豪雨被害の影響で延期されたが、基本的には月一回開催されている。ただし、これも学園の所掌の事業であり、本稿では触れない。

また前述したが表1の3で紹介する産学官連携活動については、2016年度より中央研究部の下に、産学連携知的財産管理室が発足した<sup>10,11)</sup>。筆頭著者はその室長も兼任しているが、多くの

事業を展開しており、その詳細は2017年より別稿<sup>10)</sup>にて紹介している。加えて、国際医学生連盟を介した海外医学生の受入についても、2018年度からは国際交流委員会でも所掌することになった。その経緯などについても報告する。その他、表1に掲載する対外活動について、この1年の進捗を紹介し、考察を加えていく。

## 2. 大学連携事業

### 1) 大学コンソーシアム岡山<sup>19)</sup>

大学コンソーシアム岡山の事業目標、参加機関等については表2に示すごとくである。既に2006年4月の発足から12年が経過しており、一期2年の代表校は、2018年度から岡山大学である。現在、岡山県内の4年制大学すべてが会員となっており、加えて岡山県と岡山経済同友会が会員である。なお、特別会員として、いくつかの短期大学や津山工業高等専門学校なども参加しているが、川崎医療短期大学を含めて4短期大学は入会していない<sup>19)</sup>。

基本的には参画大学の会費によって運営されていることにより経費的にも現状の事業の遂行

表2 大学コンソーシアム岡山の事業目標, 参加機関ならびに事業部と委員会

---

1. 事業目標	大学相互の協力と情報交換・地域経済界との交流・地域社会との交流と生涯学習の推進・地域高校との連携・地域創生学の構築・地域発信による国際交流
2. 参加機関	
1) 大学 (17大学)	岡山大学・岡山県立大学・新見公立大学・岡山学院大学・岡山商科大学 岡山理科大学・川崎医科大学・川崎医療福祉大学・環太平洋大学 吉備国際大学・倉敷芸術科学大学・くらしき作陽大学・山陽学園大学 就実大学・中国学園大学・ノートルダム清心女子大学・美作大学
2) 大学以外	岡山県・岡山経済同友会
3) 特別会員 (短期大学および高等専門学校)	倉敷市立短期大学・山陽学園短期大学・就実短期大学・中国短期大学 津山工業高等専門学校
4) 賛助会員 (事業に協賛する高等教育機関等および個人)	現在は登録なし
3. 事業	
1) 岡山県との包括連携協定事業	
2) 大学教育事業部	委員会 ①共同教育 ②障がい学生支援
3) 社会人教育事業部	委員会 ①社会人教育
4) 産学官連携事業部	委員会 ①地域貢献 ②就職支援
5) 運営委員会 (各大学の実務窓口担当教員の会)	
6) 企画会議 (各委員会の正副委員長と大学以外会員の担当者の会)	
7) 将来構想委員会 (運営委員会から選択された委員により全体像や将来像を検討)	
8) 事務局 (2年任期の代表校学内に持ち回りで設置)	

---

以外に新機軸を提示できることもなく、現状維持といった状況である。

表2の3-2)大学教育事業部の①共同教育とは、多くの大学が参画している対面式の単位互換制度である。しかし、本学も含めて1コマ60分の授業を導入している大学、あるいはクォーター制度を導入した大学などもあり、学生が実際に他大学に足を運んで授業を受ける方式は、ある面、転換期に至っている印象も強い。本学でも毎年度1科目を提供はしているが、他大学の受入はこれまで無しである。また、既に報告

してきたが<sup>7-9)</sup>、VOD (Video on Demand) 科目は2015年度で終了し、TV会議システムを用いたLIVE配信授業は、4大学 (山陽学園大学、岡山理科大学、岡山商科大学および中国学園大学) のみでオムニバス授業として残存しているに過ぎない。3-2)-②の障がい学生支援については、毎年8月下旬に研修会が実施されているとともに、各大学の担当者のネットワークが構成されており、機能的に活動が行われている。ただし、ここ1~2年の課題が障がい学生の就労支援という面になっており、医学部医学科のみの本学

表3 2017年度後期, 2018年度前期および後期の吉備創生カレッジへの川崎医科大学提供科目

科目名	講義年月日(含:予定)	担当教員	(所属)	内容
2017年度後期				
整形外科に おける最新 医療	2018年1月15日 1月22日 1月29日	長谷川健二郎 大成 和寛 射場 英明	(手外科・再建整形外科学) (脊椎・災害整形外科学) (脊椎・災害整形外科学)	マイクロサージャリー 骨粗鬆症における診断と治療 腰痛症における予防・診断・治療
2018年度前期				
「がん」に ついて シーズン2	2018年7月5日 7月19日 8月2日	大槻 剛巳	(衛生学)	「がん」の原因と予防 「がん」の最新の診断 「がん」の最新の治療
2018年度後期 (予定)				
予防医学 アップデート	2019年1月16日 1月30日 2月13日	大槻 剛巳	(衛生学)	働く人の健康を守る 公害から学ぶ～追悼・石牟礼道子氏～ 改めて「生活習慣」～健康増進

としては、他大学の現状を情報共有させてもらうというレベルに留まっている。

表3の3-3)は筆頭著者が委員長を務める社会人教育事業部であり、有料の市民講座シリーズである吉備創生カレッジを展開している<sup>20)</sup>。表3に本学からの対象年度の提供科目を提示する。いわゆる無料の一般市民公開講座とは異なり、受講生は入会金ならびに各科目で2千円以上の受講料を支払った上での受講である。その結果、人数的には少ないものの、熱心に聴かれる。講座内容もそれに見合うものを求めることが大学コンソーシアム岡山のスタンスである。これは共催である山陽新聞社との関連で、山陽新聞社は新聞紙上での期ごとの全面広告あるいは月単位で開講科目の広告を出すとともに、事務管理、教室提供などをしており、その経費として入会金と受講料が用いられている。大学コンソーシアム岡山の経費からは各講師への講師料がQUOカードを用いて支払われているが、潤沢な額でもなく、また開講場所は基本的に山陽新聞社のカレッジビルに限定しており、講師の交通費などについては、各大学に業務として

の取扱いをお願いしている状況でもある。現状では、期ごとの科目当たりの平均受講者数が10名を下回る現状となっており、委員長としても苦慮しているところであるが、なかなか画期的な現状打破の妙案を構築できない状況にある。

本学では、臨床系の教員にも依頼して担当してもらっているが、2018年度については筆頭著者が前期・後期ともに担当することとした。各教員の教育・診療・研究の多忙さを鑑みたためである。

表2の3-4)-①の地域貢献については、5年以上継続している「日ようび子ども大学」と「エコナイト」が中心になっている。加えて、2015年度まで3年間、岡山経済同友会主導のボランティア活動で、以前は4年間東日本大震災被災地の岩手県大槌町への学生派遣、2016年度には熊本地震の被災地への学生派遣が行われた。2018年の西日本豪雨被害は、県内でも倉敷市を中心に、総社市、岡山市、高梁市など多くの地域で被災が生じたが、密接した地域である各参画大学が、それぞれに大学の特性を活かしつつ、被災直後から種々の活動を行っており、8月1

日の大学コンソーシアム岡山運営委員会, あるいは8月28日の代表者会議でも各大学の活動が報告されたものの, 岡山経済同友会としても改めてボランティア活動の組織を構築することもなく(その設定に必要な期間よりも早期に被災地対応が必要であったこと), 大学コンソーシアム岡山としても組織構築の前に, 各大学が実働していたこともあって, 組織だったボランティア活動は実施しないこととなった。

「日ようび子ども大学」と「エコナイト」については2017年度より本学は参画していない。それまで5年間, 部活動「ぬいぐるみ病院」で参加していたが, 部活動の展開の場は他にもあることで学生諸子にも了解してもらって非参加と決めた。顧問も担当している筆頭著者の考え方については昨年度の報告にも記載したため参照して頂きたいが<sup>9)</sup>, イベントの企画運営としての姿勢に, 疑問を残しつつ実践している体制を承服しかねる部分がある。

「エコナイト」は, 七夕前後(大学コンソーシアム岡山としては冬季, 特にクリスマス前後の電気消費も多いため, ほぼ年間を通してという位置づけとしている)にそれぞれの大学でエコロジーを考えるイベントを展開するとともに, 共通イベントを2015年度から岡山市の奉還町商店街の土曜夜市のイベントの一つとして実施してきている。川崎医科大学の場合, 多くの学年で1学期の期末試験前であり, また実習中であること, 加えて附属病院の併設もあってライトダウンも能わず, 担当の筆頭著者が共通イベントで趣味の音楽を披露することで一応の参加としてきた。ただし, 2017年度からは上記のごとく「日ようび子ども大学」にも参画しなかったこともあって, 「エコナイト」共通イベントにも非参加とした。両事業を含めて, 参加している学生あるいは来場の人々は十分楽しめているとは感じられるが, 大学コンソーシアム岡山として主催するからには, 企画運営について万全

の体制を設けられないのであれば継続について考慮する姿勢も必要と考えている。

2018年8月に開催された企画会議(各事業の担当委員長の集まり)で, ある委員会の新任の委員長から, そもそも大学コンソーシアム岡山は何を目的として, どういったコンセプトで事業を展開しているかという問いが寄せられ, 参加者が返答に詰まる状況があり, 現状の大学コンソーシアム岡山の課題を象徴するような場面であった。表2-1に示す事業目標は創設時から改訂されておらず, かつ包括的な文言が並んでいるために, この目標を大きく変更することなく種々の事業については変更も可能ではあるが, 前述のごとく限られた経費の中で展開する場合に, 現状の事業について中止や廃止を行うまでの問題点もなく, また, かといって新規事業を構築する経費的な余裕もないままに, 現状維持となっているのが, ここ数年の展開である。加えて, 代表校も2年ごとに受け継がれていく状況であれば, 大胆な改変にまでは至らない構造的な課題もある。つまり, 10年以上を経過した大学コンソーシアム岡山であっても参画大学の会費収入のみで展開する事業には限界があることが明白である。ただし, 本学とは関連が薄いが就職支援委員会による合同企業説明会や障がい学生支援委員会の研修会は, 他県の大学コンソーシアムにない稀有な事業となっており, 県内全体を鑑みるとそれでも連携組織を有していることの意義は存在すると考えられる。

なお, 2018年11月17日に大学コンソーシアム岡山として, 平成30年7月豪雨災害学生ボランティア報告会を開催することが, 8月に開催された代表者会議にて決定した。学生ボランティア活動について学生の活動を口頭発表やパネルディスカッションで公表するとともに, 大学の取組をポスター展示するという内容で調整されている。本学では6学年学生がボランティア活動を行ったという報告を受けているが, 報告会

が卒業試験直前でもあり、学生発表は行わずに、本学附属病院および総合医療センターによる医療支援について、ポスターによる報告を実施する予定としている。

今後、教育連携から地域創生への大学の知の有効利用など、本筋を転換するような展開が生じた時に、会費の見直しや、事業への参画の問題などが本学にとって表出してくる可能性があり、学内で参画している川崎医療福祉大学とともに脱退などの可能性も検討せざるを得ない事態も起こり得ると感じている。大学コンソーシアム岡山自体の事業を注意深く観察した上で考察していくことが肝要になるであろう。

なお、岡山県との包括協定のもとに、岡山県のホームページの中に「岡山県大学ガイド」が2017年度よりPDFで掲載され<sup>21)</sup>、本学も紹介されている<sup>22)</sup>。

## 2) 倉敷市大学連携推進会議

表1、2-2)の倉敷市大学連携推進会議<sup>23)</sup>も既に7年目に入った。主たる活動はライフパーク倉敷での各大学からの無料市民公開講座であるが、その他、本学とは直接関係がないもののインターンシップ事業（主として倉敷市役所での体験など）や、倉敷市保健所からの自殺に対するゲートキーパー養成<sup>24)</sup>の情報開示などの展開が行われている。ちなみにゲートキーパー養成については、2019年度の新入生オリエンテーションで、15～20分ではあるが紹介してもらうことになっている。

本学も設立当初から講座を提供している。こちらは大学コンソーシアム岡山の吉備創生カレッジと異なり無料であることもあって、受講生数は十分に多い（30～60名前後）。表4に2017年度と2018年度の予定を含む提供講座を紹介している。担当の教員には感謝したい。また

表4 2017年度から2018年度にかけての倉敷市大学連携講座への川崎医科大学提供科目

科目名	講義年月日(含:予定)	担当教員	所属	内容
2017年度：連続講座				
生活習慣病を含めた高齢者の健康について	2017年9月29日	高尾 俊弘	健康管理学	(1)血圧が気になる方へ ～知っておきたい予防と改善～
		山本 直子	附属病院健康管理センター	(2)意外と知らないお酒とタバコの話
	10月26日	下田 将司	糖尿病・代謝・内分泌内科学	防ごう糖尿病！保とう若さ！
	11月28日 12月22日	佐藤 稔 久徳 弓子	腎臓・高血圧内科学 神経内科学	慢性腎臓病と高血圧の深い関係 知ろう！防ごう！認知症
2018年度：単発講座				
	2018年9月20日	青山 裕美	皮膚科学	アトピー性皮膚炎とうまくつきあうための基礎知識
	9月28日	松本 友里	附属病院健康管理センター	いきいき健幸生活 (1)ロコモを防いで寝たきり知らず (2)歌に学ぶ人間関係のコツ
	11月16日	高尾 俊弘 杉山 岳史	健康管理学 リハビリテーション医学	知って納得 腰痛・ひざ痛の予防
	12月6日	大槻 剛巳	衛生学	森を住まいへ！健康増進住宅の構築

企画運営を行っている倉敷市企画経営室では、受講生としてリピーターは多いものの新規の受講市民の数が増加しないこともあり、方策として2018年度からはfacebookなどのSNSを用いた案内などにも注力するとのことである<sup>25)</sup>。

なお、2018年7月初旬の西日本豪雨被害により7月開講の他大学の一部講座は中止となったが、致し方ないことであろう。

2015年度までの3年間「地域に飛び出す学生支援事業」が展開され、本学では初年度に「ぬいぐるみ病院」、2年目は「合唱部フェッセル」、3年目には「Jazz研究会」と「折り紙同好会」が助成を受けることができた。本支援事業は2015年度で終了したことは既に報告した<sup>7-9)</sup>。

前述のように、学校法人川崎学園が倉敷市との包括協定の中での取組として、市民公開講座の開講を行い、ここには倉敷市大学連携推進会議の参画校である本学および川崎医療福祉大

学、川崎医療短期大学の教職員も講師として参画することになる。学園主体の市民公開講座と、大学連携講座としての学園内3大学の講座が並行して実施されることになるが、学園の市民公開講座はくらしき健康福祉プラザを会場とし、大学連携講座は学園外大学も含めてライフパーク倉敷を会場としている点で異なっている。ただし、講師依頼が届く教職員にとって、学園職員としては学園主導の公開講座を優先すべき状況が生じることも考えられるが、それでも倉敷市大学連携講座への学園内3大学の貢献が減少しないように工夫も必要になるかも知れない。

### 3. 吉備創生カレッジおよび倉敷市大学連携講座の広報

図1に示すのは、2018年8月に学園広報から、倉敷市松島、二子および生坂の町内会に向けて

**町内会のみなさまへ**  
川崎学園では、「吉備創生カレッジ」・「倉敷市大学連携講座」において、講座の提供をしています。

**倉敷市大学連携講座** (2018年度9月~10月) ※11月以降は未発表

※お問い合わせ・申し込みはこちら ⇒

**吉備創生カレッジさん太キコンパス** (2018年度10月~3月)

※お問い合わせ・申し込みはこちら ⇒

※受講料は無料です。お問い合わせ・申し込みはこちら ⇒

倉敷市 企画経営室 大学連携推進課 ☎086-426-3055

図1 2018年9月に倉敷市松島、二子および生坂地区に配布された川崎学園の広報。吉備創生カレッジと倉敷市大学連携講座の学園内大学からの情報を掲載している。



配布する学園の広報資料である。今回から吉備創生カレッジと倉敷市大学連携講座に、本学および川崎医療福祉大学と川崎医療短期大学が提供する科目については、このような広報をすることになった。学園広報に感謝するとともに、学園内の教員の知の力が、少しでも地域の市民の方々に役立っていく方策を模索していきたい。

#### 4. その他対外活動（国際交流委員会所掌事業を省く）

#### 1) 国際医学生連盟（IFMSA）による海外留学生の受入

毎回、その他の対外活動の中でIFMSA<sup>12)</sup>を介した学生国際交流について触れている<sup>1-9)</sup>。ただし、2015年度よりは国際交流委員会が設置され、多くの国際交流事業が展開されており、また学園としての英国・オックスフォード大学のグリーンテンプレトンカレッジとの交流事業も継続されている。

IFMSAを介した国際医学生交流は、本学では2009年から始まった（表5）。2017～2018年

表5 国際医学生連盟（IFMSA）を介した本学学生の短期留学と海外学生の受入

川崎医科大学学生の留学			
年度	氏名	留学先大学	国名
2009	井川 京子 (M3)	エラスムス大学	オランダ王国
2012	奥井 侑里 (M4)	イエナ大学	ドイツ連邦共和国
2013	小暮 祐太 (M3)	マドリッド・コンプルテンセ大学	スペイン王国
	古澤 航平 (M2)	ベルアナ・カジェタノ・エレディア大学	ペルー共和国
2014	香川 元伸 (M3)	ジェラルール・バヤル大学	トルコ共和国
2016	平光 俊貴 (M3)	ルーヴェン・カトリック大学	ベルギー王国
川崎医科大学での受入（記載以外は衛生学にて担当）			
年度	氏名	所属大学	国名
2009	Mr. Johannes Sets	ウィーン大学	オーストリア共和国
2011	Mr. Maximillian Makus Kremer	インスブルック大学	オーストリア共和国
※解剖学	Ms. Micaela Lilianca Rea Tobler	ベルン大学	スイス連邦
※解剖学	Mr. Michal Fiser	チャールズ大学	チェコ共和国
2013	Ms. Jitka Šlehoferová	プラハカレル大学	チェコ共和国
2014	Mr. Dani Zalem	イエテボリ大学	スウェーデン王国
2015	Ms. Linda Al-Hassany	エラスムス大学	オランダ王国
	Ms. Valentina Marinović	ザグレブ大学	クロアチア共和国
2016	Ms. Laura Leinonen	トゥルク大学	フィンランド共和国
	Ms. Aliya Sayfullina	バシキール州立医科大学	ロシア連邦
2017	Ms. Maria Sanz Codina	ロビラ・イ・ビルジリ大学	スペイン王国
	Ms. Paula de Valle Gomez	マドリッド・コンプルテンセ大学	スペイン王国
(2018年から国際交流委員会にて所掌：参考までに掲載)			
2018	Ms. Anca Goman	オラデア大学	ルーマニア
※循環器内科学	Ms. Ivana Crnojević	リエカ大学	クロアチア共和国
※糖尿病・代謝・内分泌内科学	Ms. Marija Franka Marušić	リエカ大学	クロアチア共和国

度には本学から出向いた学生はいなかったが、クロアチアから2名、ルーマニアから1名の女子学生が来日した。IFMSAの制度として基礎医学研究での留学ということで、当初、IFMSAも基本的には低学年、すなわち基礎医学終了時点の学生の留学希望を募っており、その窓口として本学では衛生学が受入研修教室として提示されていた（当初は筆頭著者がESSの顧問をしていたためである）。また、ここ3～4年は学生間交流としての短期留学を優先させ、教室としては昼間の研究の研修見学を例年、筆者の李を中心に担当し、週末や放課後の時間帯は可能な限り学生間での交流に費やしてもらった体制としてきた。

ただし、ここ2年ほど、IFMSAとして臨床系の講義あるいは自国での実習なども終了した高学年にも対象を広げ、本学にもそういった学生が来学してきていた。2017年度までは、衛生学が担当する中で、数日単位で臨床の教室（皮膚科、小児科、呼吸器外科など）にお願いしていたが、臨床系での見学実習などを期待する学生が来日することを鑑み、また基本的に学生間交流とはいえ、昼間の時間帯は教室単位で対応する必要性を考えると、大学全体として本件に対応する必要が生じてきていることが、最近の課題であった。

2017年度末から2018年にかけて、ESS部学生の安井祐人君（2018年度第4学年）が顧問である長谷川と共に国際交流委員会（委員長・柏原）との間で調整を行い、2018年度来日学生からは、国際交流委員会が所掌することとなった。その結果、2018年度も基礎系を希望した学生は衛生学で受け入れたが、国際交流委員会の調整の上で、循環器内科、糖尿病・代謝・内分泌内科を希望した学生は、それぞれ担当教室の快諾を得て、見学実習を実施する体制となった。担当したESS部安井君が努力した成果でもあり、受入態勢として整備が行われたと考える。なお、今

回の報告まではこれらの経緯の紹介も含めて、本稿にIFMSA留学生に関連する内容を記載したが、今後は、国際交流委員会の業務報告に委ねることになろう。

#### おわりに

筆頭著者が主に関わっている川崎医科大学の大学連携を中心とした対外活動についてこの1年の状況を報告した。産学官連携について産学連携知的財産管理室の発足により本稿からは省いたこと、また大学コンソーシアム岡山での地域貢献事業部の二つのイベントに参加しなかったこともあって、従来実施してきた内容の継続の報告となった。医学部医学科の大学として第三者評価や国際認証評価という喫緊の、かつ継続的に取り組まないとならない課題もある中で、岡山県倉敷市に所在している大学として大学連携に対して、大きな力を注ぎきれない現状があるが、これらの連携事業に協力してもらった教職員には感謝しかない。

大学コンソーシアム岡山は既に発足から12年目となっており、倉敷市大学連携推進会議も7年目となっている。経費その他の問題で新しい事業展開もままならない現状で、さらには就職関連のインターンシップなどについて本学は無縁であることもあって、限られた事業での参画とはなっているが、こういった地域の他大学との連携の必要性と、その中で本学の独自性を保ちながら貢献できる部分については、最大限の努力を惜しまない姿勢を表出することは必要なことであろう。

いずれの組織も、まだしばらくは、現状の事業の継続ということになろうと想定するが、いずれも若干のマンネリズムに陥りつつあることも否めず、持続可能な事業展開の困難さが表出されてきている印象も強い。

本学としても貢献できる部分には十分に対応するが、教職員の業務として過剰とならない範

囲を見極めながら展開していくことが重要になるであろう。

## 謝 辞

本稿で紹介した多くの活動については、学内の多数の教職員の方々のご理解とご協力によって実施し得た事業が多くありました。誌上ではありますが、謹んで感謝の意を表したいと存じます。まことにありがとうございました。

## 参考文献

(URLについて、すべて2018年8月12日にアクセス可能であった。)

- 1) 大槻剛巳, 毛利聡, 虫明基, 富田正文, 西村泰光, 松島眞治, 勝山博信, 川西礼美, 福永仁夫. 川崎医科大学における大学連携, 産学官連携等, 対外活動について: その1. 川崎医学会誌一般教養篇. 37:31-46, 2011
- 2) 大槻剛巳, 小笠原康夫, 柏原直樹, 佐藤稔, 大澤裕, 矢田豊隆, 毛利聡, 山内明, 武井直子, 前田恵, 西村泰光, 小野寺昇, 望月精一, 茅野功, 川西礼美, 福永仁夫. 川崎医科大学における大学連携, 産学官連携等, 対外活動について: その2. 川崎医学会誌一般教養篇. 37:47-59, 2011
- 3) 大槻剛巳, 日野啓輔, 種本和雄, 藤田喜久, 中塚秀輝, 長谷川徹, 中野貴司, 田中孝明, 芝田敬, 松崎秀紀, 李順姫, 武井直子, 西村泰光, 清蔭恵美, 樋田一徳, 佐々木和信, 川西礼美, 福永仁夫. 川崎医科大学における大学連携, 産学官連携等, 対外活動について: その3. 川崎医学会誌一般教養篇. 37:61-75, 2011
- 4) 大槻剛巳, 虫明基, 富田正文, 寺田喜平, 福永仁夫. 川崎医科大学における大学連携, 産学官連携等, 対外活動について: その4 - 2011年度半ばから2012年度半ばにかけての活動-. 川崎医学会誌一般教養篇 38:1-15, 2012
- 5) 大槻剛巳, 寺田喜平, 山内明, 福永仁夫. 川崎医科大学における大学連携, 産学官連携, 対外活動について: その5 - 2012年度半ばから2013年度半ばにかけての活動-. 川崎医学会誌一般教養篇 39:1-14, 2013
- 6) 大槻剛巳, 寺田喜平, 山内明, 福永仁夫. 川崎医科大学における大学連携, 産学官連携等, 対外活動について: その6 - 2013年度半ばから2014年度半ばにかけての活動-. 川崎医学会誌一般教養篇 40:1-20, 2014
- 7) 大槻剛巳, 寺田喜平, 山内明, 福永仁夫. 川崎医科大学における大学連携, 産学官連携等, 対外活動について: その7 - 2014年度半ばから2015年度半ばにかけての活動-. 川崎医学会雑誌一般教養編 41:1-22, 2015
- 8) 大槻剛巳, 山内明, 寺田喜平, 李順姫, 西村泰光, 福永仁夫. 川崎医科大学における大学連携, 産学官連携, 対外活動について: その8 - 2015年度半ばから2016年度半ばにかけての活動-. 川崎医学会誌一般教養篇 42:1-18, 2016
- 9) 大槻剛巳, 李順姫, 福永仁夫. 川崎医科大学における大学連携活動について: その9 - 2016年度半ばから2017年度半ばにかけての活動-. 川崎医学会誌一般教養編 43:1-11, 2017
- 10) 大槻剛巳, 山内明, 西村泰光, 西山和成, 本地直貴, 青江智子, 多田美津恵, 川西礼美. 産学連携知的財産管理室 - 2016年度活動報告 -. 川崎医学会誌一般教養編 43:13-28, 2017
- 11) <http://www.kawasaki-m.ac.jp/med/sanchi/>
- 12) <https://ifmsa.org/>
- 13) [http://www.city.okayama.jp/kikaku/kikaku\\_t00052.html](http://www.city.okayama.jp/kikaku/kikaku_t00052.html)
- 14) [https://k.kawasaki-m.ac.jp/data/933/local\\_dtl/](https://k.kawasaki-m.ac.jp/data/933/local_dtl/)
- 15) [https://k.kawasaki-m.ac.jp/data/931/local\\_dtl/](https://k.kawasaki-m.ac.jp/data/931/local_dtl/)
- 16) [https://k.kawasaki-m.ac.jp/data/1066/news\\_dtl/](https://k.kawasaki-m.ac.jp/data/1066/news_dtl/)
- 17) [https://k.kawasaki-m.ac.jp/data/gakuen\\_kouza/](https://k.kawasaki-m.ac.jp/data/gakuen_kouza/)
- 18) <http://www2.city.kurashiki.okayama.jp/mayor/>

- action\_blog/5475/
- 19) <http://www.consortium-okayama.jp/>
  - 20) <http://www.consortium-okayama.jp/kibi-sousei.html>
  - 21) [http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/503268\\_4401856\\_misc.pdf](http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/503268_4401856_misc.pdf)
  - 22) <http://www.pref.okayama.jp/uploaded/attachment/231343.pdf>
  - 23) <http://www.city.kurashiki.okayama.jp/renkeikoza/>
  - 24) <http://www.city.kurashiki.okayama.jp/24207.htm>
  - 25) <https://www.facebook.com/kurashikigurashi/>